

昆虫採集に行こう！

みなさんは、昆虫採集をしたことがありますか。昆虫は空を飛んだり、地面を歩いていたり、水の中いたり、いろいろなところに住んでいます。

少し注意を払えば、身近にも実に多くの昆虫が住

ていることに気がつきます。

いろいろなところにいる昆虫たちを捕まえて、その虫の色や形をじっくり眺めたり、特徴やどうやって生活しているのかを研究して、この夏は、昆虫博士をめざしてみませんか。

昆虫採集の注意点

昆虫採集をするときは、草や木の枝でケガしないように、また蚊やハチなどに刺されないように肌を出さない服装にしましょう。畑など、ほかの人の土地に入るときは、声をかけ、許可を取ってから入るようにして、マナーを守りましょう。山や川に入ると危ないので、ケガをしないように十分気をつけ、出かけるときは、ひとりで行かないこと。大人の人にどこに行くか言っておくことも大事です。

昆虫はいろいろなところの。

昆虫の種類によって変わりますが、トンボだと、小川の近くや田んぼのあぜ、池など水辺の近くにいます。チョウは、民家の周りにもやってきますが、山と平地の境目や咲いている花の近くでよく見られます。



昆虫採集をするときの服装

カブトムシやクワガタなどの甲虫は夜活動するため、昼間は木の幹や穴の中に隠れていることが多いです。ヤナギやクヌギなど樹液が出る木に集まるので、明るいときに木の種類を調べておくと、見つけやすくなります。

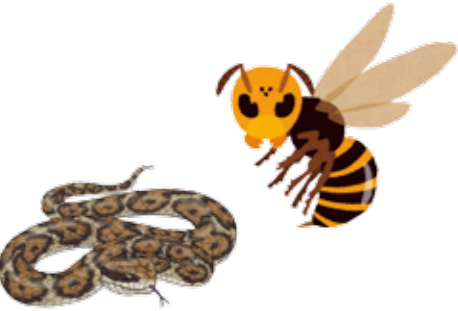


危険な生き物に注意!!

草むらや山にはマムシやスズメバチなど、危険な生き物がある可能性があります。もし、マムシやスズメバチがいた場合は、騒がずに静かに後退してください。

昆虫を捕まえたらい?

昆虫採集は、人と昆虫との一騎打ち。捕まえようとして、もすばやく逃げて、なかなか捕まらないのも醍醐味のひとつです。そうして、がんばって捕った昆虫を飼いたい場合は、図鑑などで昆虫の飼育方法を調べ、飼育ケースなどで大事に飼い、弱ってきたら離してあげましょう。



また、飼わないけど昆虫を捕るのが好きだという人は、捕まえて納得いくまで観察したら元の場所に離してあげましょう。

さらに、昆虫採集を夏休



この地域に住む人の温かい人柄や
多種多様な昆虫の生態を通じて
熊野の自然の懐の深さを感じます

山口和洋さん

昭和22年生まれ。元教職員で矢洲中学校には16年勤務。教員時代の担当は理科。この地域でチョウは約45年、トンボは約40年前から調査し、自然を記録し続けている。



チョウやトンボは、植物や水との関連が深く、環境を調べていくのに適していると考え40年ほど前から調査を始めました。

子どもたちにも、実際に虫取り網を持って昆虫を追って体験してもらいたいと思います。どんなところにも、どんな虫が生きているのか、実際の姿を見てほしい。そんな中から、虫たちは周りの環境の中で精いっぱい生きていくことや虫を通して命(生と死など)のことも体感して学んでもらえたらと思います。

また、温暖な気候で雨が多く、深い森があり、黒潮の影響をつけるこの地方は、比較的夏は涼しく冬は暖かです。水にも恵まれているため、多様な生き物を広く受け入れる自然が形成されています。老若男女を問わず、どのような立場の人でも受け入れてきたというこの地方のあり方に通じるものを感じます。

環境の変化などで昆虫の世界はどんどん移り変わっていきます。これからも昆虫の調査を通して自然を記録していきたいと思っています。

昆虫を見つけやすい場所はココ!



カブトムシを捕る



→ヤナギやクヌギの木がある雑木林

カブトムシやクワガタはヤナギやクヌギなど樹液が出る木に集まります。そうした木を見つけたら、よく探してください。また、木を揺すってみると落ちてくる場合があります。

トンボを捕る



→川や池など水辺のところ

トンボは天気のいい日に飛んでいることが多い昆虫です。種類により飛ぶ場所や飛ぶ時間帯も変わってくるので、捕りたいトンボの性質を調べておくと、見つけやすくなります。

チョウを捕る



→山裾や花が咲いているところ

チョウは、山と平地の境目や花の咲いている場所、日向と日陰の境目などに沿って、蝶道と呼ばれる決まったルートで飛ぶ性質があるので、蝶道で待ち伏せしてみましょう。